

CP+2017

CAMERA & PHOTO IMAGING SHOW

2017年2月23日(木)から4日間、神奈川県横浜市のみなとみらいにあるパシフィコ横浜とBankART Studio NYKを会場としてカメラと写真映像のワールドプレミアショー「CP+ (シーピープラス) 2017」が開催された。

当展示会は一般社団法人カメラ映像機器工業会 (CIPA) の主催にて、国際都市・横浜に開催地を移して8年目、「日本カメラショー」時代から数えて50年を越える歴史を持ち、世界をリードする総合的カメラ映像ショーとなった。

来場者もビジネスユーザーはもとより家族連れ、女性客も増加し、CP+2017では4日間でおおよそ7万人の登録来場者が訪れ、数多くのワールドプレミア (世界初発表製品) がここ日本から世界に向けて発表された。

本年の同展は、展示ホール、アネックスホール、会議センターの3カ所の会場にて行なわれ、メイン会場である「展示ホール」ではカメラメーカー、レンズメーカー、記録メディア、三脚、バッグなどのアクセサリ用

品のメーカーや販社などが主体となって出展。隣接する「アネックスホール」では、中古カメラフェアやフォトアクセサリアウトレットなどの実売スペースが設けられた。

一方、昨年まで展示ホール内に設けられていた「プロ向け動画エリア」は別棟の会議センターが会場となり、展示スペースにはシネマカメラ、編集システム、三脚、バッテリーなどのプロ用機材メーカー及び販社10社が出展した。「プロ向け動画エリア」においても、今すぐ使える実用度の高い製品から、夢のある話題の製品まで揃う、現在進行形のトータルな動画ソリューションを紹介する場を提供した。

さて、カメラ業界のマーケットについて見てみると、昨今ではスマートフォンの普及や震災の影響などで厳しい状況が続いてはいるのは確かであるものの、世界のデジタルカメラ販売台数における日本メーカーのシェアは約78%、レンズ交換タイプの一眼レフデジタルカメラにおいては約99%となり、日本メーカーの独壇場である。

そのため日本が世界の写真映像ビジネスを牽引していると言っても過言ではなく、今回のCP+においても、独走態勢を築いている日本メーカー各社の新モデルには、市場を牽引していくにふさわしい革新的な技術が投入されている。

一方、三脚やバックなどの用品関連では海外製品も多数見受けられ、マーケット規模が縮小しているとは感じられない。

本来この催しは主にコンシューマー向けの展示やセミナーが中心のエキシビションであったが、昨今ではプロ用機材とコンシューマー機材の境界が薄れていったこと。さらにデジタルスチールカメラの筐体にて昨今では4Kまでの高画質動画が撮影出来るカメラが登場しており、動画セミナーに人気が集まるなど、デジタル一眼ムービーをはじめとする動画制作への関心も年々高くなってきた。

そのためにハイエンド・アマチュア層に向けたプロの写真家やプロの映像制作者による内容のセミナーも多数行われるようになった。



富士フイルム

同展の開催期間終了直後に発売を開始した中判ミラーレスカメラ「GFX 50S」、専用交換レンズ「フジノン GFレンズ」、「Xシリーズ」の最新モデル「X-T2 グラファイトシルバーエディション」「X-T20」「X100F」をはじめ各シリーズのラインアップが展示された。

「GFX 50S」は有効画素数5140万画素の「Gフォーマット」センサー、画像処理エンジン「X-Processor Pro」、富士フイルムが80年以上にわたり蓄積した色再現技術、世界中の写真家から長年高い評価と信頼を得てきた「フジノンレンズ」の設計思想を忠実に引き継いだ交換レンズ「GFレンズ」との組み合わせで、富士フイルム史上最高画質を実現するハイエンドミラーレスデジタルカメラである。

実際にカメラとレンズを試してみることができるタッチ&トライコーナーのほか、フラッグシップモデルの「X-T2」を無料で貸

し出し写真家の講師とともにみなとみらい近郊を撮影しながら回るフォトウォーク、「X-Pro2」「X-T2」や「XFレンズ」を無料で試用できるレンタルサービスなどが行われ、参加者はXシリーズの画質を実感できる6ツ切りワイドプリントのサンプルを1枚無料で提供された。

また、「GFX/Xシリーズ」を愛用している写真家などを招いたスペシャルトークショーや、「Xシリーズ」のクイックメンテサービス、スマートフォンなど撮影した画像を正方形に切り取ってプリントする「ましかくプリント」、様々なシーンや用途にあった豊富なラインアップがある「フォトブック」、お気に入りの写真をパネルや額装に加工して飾れる「WALL DECOR」、スマートフォン用プリンター「スマホde チェキ」などの各種プリントサービスの体験コーナーなども行われた。

***** FUJIFILM 「GFX 50S」 *****

「GFX 50S」は、有効画素数 5,140 万画素の「Gフォーマット」センサー、画像処理エンジン「X-Processor Pro」、富士フイルムが80年以上にわたり蓄積した色再現技術、世界中の写真家から長年高い評価と信頼を得てきた「フジノンレンズ」の設計思想を忠実に引き継いだ交換レンズ「GFレンズ」との組み合わせで、富士フイルム史上最高画質を実現するハイエンドミラーレスデジタルカメラ。APS-C サイズセンサー搭載のデジタルカメラ「Xシリーズ」で高い評価を得ている高品位なデザイン、優れた操作性などの特長も継承している。

なお、今回発売した「GFレンズ」は、標準レンズ「FUJINON GF63mmF2.8 R WR」（以下、「GF63mmF2.8 R WR」）、標準ズームレンズ「FUJINON GF32-64mmF4 R LM WR」、中望遠マクロレンズ「FUJINON GF120mmF4 R LM OIS WR Macro」。

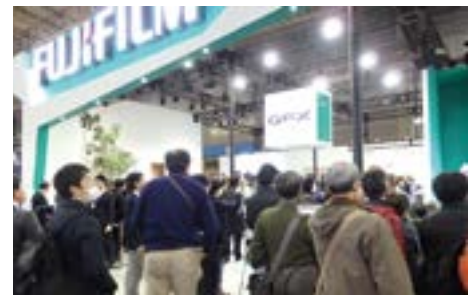
■「GFX 50S」と「GFレンズ」で実現した主なポイント

① 中判サイズの5140万画素CMOSセンサーと、「Xシリーズ」で好評の画像処理エンジン「X-Processor Pro」を搭載：同等の画素数を持つ35mmフルサイズセンサー搭載機と比べて、センサーサイズが大きく一画素あ

たりの受光能力に優れるため、卓越した高感度性能、階調再現性を発揮。さらに、集光性能と解像力を最適化するマイクロレンズや、フォトダイオードを形成するプロセスを最適化することで、既存の同サイズセンサー採用カメラをも上回る超高画質を実現し、被写体の質感、立体感、その場の空気感までも伝えられるほど精緻な映像を描写できる。また画像処理エンジンには、「Xシリーズ」ですでに高評価の「X-Processor Pro」を採用。富士フイルムが誇る「フィルムシミュレーション」による色再現を実現。動画機能はフルHD30pに対応しており、高画質動画撮影が可能である。加えて、静止画同様に「フィルムシミュレーション」を使うことで、色調整などの後処理が不要になる。

② 小型軽量かつ高剛性ボディを実現し、中判サイズセンサー搭載機の常識を覆す機動性を発揮：マグネシウム合金を使用した、小型軽量かつ高剛性ボディ。さらに、ミラーレスシステムであるため、標準レンズ「GF63mmF2.8 R WR」と組み合わせても約1230gと、中判サイズセンサー搭載機の約60%、35mmフルサイズセンサー搭載機とほぼ同等の重量を実現しているため、高い機動性を発揮する。

③ 369万ドット有機EL電子ビューファイン



GFX タッチ & トライのコーナーは数十分待ちの行列



Xシリーズレンズの紹介コーナー



ダー（EVF）、236万ドット静電式タッチパネル背面液晶モニターを採用：EVFは富士フイルム初の着脱式で、ユーザーの使い方に合わせたフレキシブルな運用が可能。別売のEVFチルトアダプター（EVF-TL1）と併用することで、さまざまな角度に調整できる。また背面液晶モニターには、タッチ操作でメニューや測距点、画像などを選択できる3.2型静電式タッチパネルを採用。3方向チルト式とすることで操作性を高めるとともに、画像やピントを容易に確認できる。

④ 堅牢性、耐久性に優れる大口径「Gマウント」と超高解像を実現する「GFレンズ」を新開発：マウント径65mmの大口径、26.7mmと短いフランジバックの専用マウント「Gマウント」を開発した。ボディとレンズを同時開発することで、「Gフォーマット」センサーと「GFレンズ」の性能を最大限に引き出す。レンズの光学設計の自由度を向上させ、高画質化、さら

にはボディの小型化にも貢献している。新規設計の「GFレンズ」は、将来を見据え、1億画素のセンサーにも対応できる解像力を実現。また、レンズ鏡胴には「Xシリーズ」で好評の絞りリングを備え、写真家の直感的な操作に対応。新たに絞りリングにも「C（コマンドダイヤル）ポジション」を追加し、絞りをボディのコマンドダイヤルで変更可能にした。



「X-T2」グラファイトシルバーモデル（セットの「EF-X8」装着時



多層塗装により重厚感と高級感を兼ね備えたデザインを実現

ケンコー・トキナー

CPUと距離エンコーダを搭載、フルサイズ対応のソニーEマウント用大口径広角単焦点マニュアルフォーカスレンズ「FIRIN 20mm F2 FE MF」、SAMYANG オプティクス製、マニュアルフォーカスの5000万画素、8K動画にマッチした中望遠プレミアムレンズ「XP85mm F1.2」、新開発のフローティングフレームシステムを採用しフィルターガラスへの負荷を限りなくゼロに近づける保護フィルター「ZX プロテクター」、脚を反転して折

りたたみより小さく収納できるスリックのトラベル三脚「エアリーカーボン645LED」、重さ105gで最大1500ルーメンまで光量調節可能な外部フラッシュ「LUME CUBE」などの新製品が展示され、実際に手にとることができた。また、ポータブル赤道儀「ケンコー スカイモト」も参考出展された。

ブースではレンズクリーニングサービスやアウトレット販売が行われた他、ステージでは撮影講座や製品紹介などのセミナーが行われた。



オリンパス

ミラーレス一眼カメラ「OM-D E-M1 Mark II」「OLYMPUS PEN-F」、M.ZUIKO DIGITAL PROレンズなどの新製品をはじめとした各種製品が展示された。

「OM-D E-M1 Mark II」は、新20M Live MOSセンサーと新画像処理エンジンTrue Pic VIIIによって最高18コマ/秒のAF/AE追従連写、最高60コマ/秒のAF/AE固定連写が可能。1stリリースから20Mの高画素で記録を開始し、2ndリリースまでの間の映像

を最大14コマ記録し撮りたい瞬間を逃さない新機能「プロキャプチャーモード」が搭載され、121点オールクロス像面位相差センサーによってAFシステムの性能が高まった。

動体撮影体験コーナーやポートレート撮影体験コーナー、暗所撮影体験コーナーなどでは「OM-D E-M1 Mark II」のAF追従の高速連写などの性能を確認することができた。ステージでは写真家による「OM-D E-M1 Mark II」の魅力の紹介や、被写体・テーマ別撮



影特別講座などが行われた。

リコー

デジタルカメラタッチ&トライコーナーでは2月下旬に発売された「PENTAX KP」や「PENTAX K-1」「PENTAX 645Z」「GR II」、各種交換レンズなどを体験することができた。

「PENTAX KP」は新CMOSイメージセン



PENTAX KP

サーと画像処理エンジンPRIME IV & アクセラレーターユニットによるノイズ処理によって最高でISO819200という超高感度撮影が可能になった。ボディ内手ぶれ補正機構SR IIを応用し、イメージセンサーを1画素ピッチで動かしながら4枚を連続撮影、1画素ごとにRGB各色の情報を得て合成処理を行うことにより、通常撮影では表現できない超高精細な画像を生成できる「リアル・レゾリューション・システム」も搭載されている。

「RICOH THETA」タッチ&トライコーナーではワンショットで全天球画像や動画を撮影できる「RICOH THETA」での撮影体験やヘッドマウントディスプレイを使った360度のVR体験などができた。また、双眼鏡/スポン



「PENTAX 645Z」

ティングスコープのタッチ&トライコーナーも設けられていた。セミナー・ワークショップでは「PENTAX」や「THETA」の活用方法などが紹介された。

neviON

Media Gateway to IP

ビデオプロダクション、ビデオ長距離中継伝送、放送スタジオのIP化ゲートウェイ各種インターフェースを取り揃えております。



NX4600 シリーズ
Full Duplex H.264/AVC
Media Gateway

製造元：
Nevion AS

Flashlink IP シリーズ
非圧縮マルチプレックス SDI
AES 67 IP オーディオ



輸入販売元：
ネットワークエレクトロニクスジャパン 株式会社 ●TEL:03-5542-3260 ●http://www.network-electronics.co.jp



Ventura シリーズ
非圧縮 SDI、オーディオ、JPEG2000 圧縮

キヤノン

「先進の“撮る・観る・つながる”で、楽しさをもっと。」をテーマに入力から出力、静止画から動画に至る多数の製品を出展した。新製品の一眼レフカメラ「EOS 9000D」は新開発の約2420万画素CMOSセンサー、映像エンジンDIGIC7を搭載、オールクロス45点オートフォーカスや約6コマ/秒の連続撮影能力などを持つ。その他にも「EOS Kiss X9i」「EOS M6」、プレミアムコンパクトデジタルカメラ「PowerShot G9X MarkII」など最新製品が展示され、ブースのセンターステージでは写真家によるEOSを用いた撮影についてのトークショーが行われた。

またEOS MOVIE デモ/YouTube スタジオデモコーナーではEOS MOVIEでの撮影の魅力や編集のテクニックなどが紹介され、人気YouTubeクリエイターによる一眼レフカメラを使ったYouTube動画の撮影テ

クニックのデモンストレーションが行われた。出力面では、写真フォルダーを選ぶだけで自動レイアウトシステム「EAGIAL」が撮りためた写真や動画を選んでレイアウトを組み、フォトブックを作成するオンラインフォトブックサービス「PhotoJewel S」や、大判インクジェットプリンター「imagePROGRAF PRO-4000」で出力した大型プリント作品を展示するコーナーなどが設けられた。

風景や花、乗り物や動物やスポーツ、CINEMA EOS SYSTEMから一眼レフカメラのEOS MOVIEまでの動画撮影と撮影対象ごとに体験コーナーが設置され、具体的な撮影シーンに合わせたブースが展開され、センター、レフト、ライトの3つに分かれたステージでは総勢40名を超える写真家・クリエイターによる初心者からハイアマチュアまで幅広い層を対象とする各種セミナーが行われた。



7D Mark II, 5D Mark IV, 1DX などEOS シリーズが並ぶ



プロ向け動画エリアのブースにて展示した「EOS C-700」

DJI JAPAN

今年1月にCESで発表したハンディスタビライザーの新シリーズ「OSMO MOBILE SILVER」をはじめとする各製品を出品した。「OSMO MOBILE SILVER」はスマートフォンで手ブレを抑えた動画撮影ができるハンディスタビライザーで専用アプリ「DJI GO」を使い被写体の自動追尾やモーション・タイムラプス、スローモーション撮影、長時間露光撮影、パノラマ撮影などが可能。撮影した映像を補正しプロレベルの綺麗な映像に仕上げることやライブでストリーム配信することもできる。

また、昨年11月に発表した新製品「PHANTOM 4 PRO」と「INSPIRE 2」に加えて「MAVIC PRO」のデモフライトが行われたほか、スウェーデンのハッセルブラッド製カメラ「H6D-100c」を搭載した

「DJI MATRICE600」も展示されていた。「PHANTOM 4 PRO」はH.264 4K/60fpsの動画とH.265 4K/30fpsの動画を100Mbpsのビットレートで撮影可能。5方向障害物検知で専用ディスプレイ付き送信機が付き、ディスプレイ上に線を描くだけで高度を固定したまま描いた線の方に飛行する「Draw」技術などが利用できる。「INSPIRE 2」はAdobe Cinema DNG RAW、Apple ProRes等に対応し最大5.2Kまで撮影が可能。停止した状態から5秒で80km/hまで加速し最大スピードは94km/hにまで達する。「MAVIC PRO」はアームを折りたたんでコンパクトにできるクワッドコプターで、折りたたんだ状態の大きさは83mm×83mm×198mm、バッテリーで27分間の飛行が可能で30fps4K動画の撮影もできる。

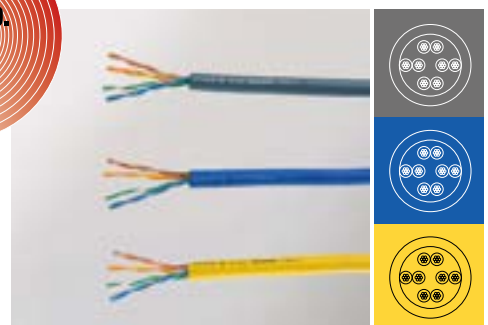


MOGAMI LAN CABLE

モガミイーサネットケーブル 施工工事用 LANケーブル

施工工事時に有刺鉄線のようにならず楽に配線出来るよう、平らにまっすぐ収まるように設計されたLAN CABLEです。UL VW-1 難燃規格にも適合しており、標準で3色（青・灰・黄）用意しました。また、平均的な減衰測定値から90m前後まではTIA/EIA-568B Cat-5e規格値を満たしますので、両端に接続される機器の電氣的性能によりそれ以上の長さで使用する場合や、逆にそれ以下の利用長に制限される場合がありますので、際どい場合には利用前に実地確認する必要があります。

Part No.
3367



お問い合わせ エムアイティー株式会社

PHONE: (03)3439-3755

E-MAIL: mit@mogami.com

URL: http://www.mogami.com

パナソニック

3月下旬発売予定の「LUMIX GH5」をはじめとしたLUMIXの全ラインナップが出版され、試用することができた。LUMIXには肉眼ではとらえられない一瞬を写真としてとらえる高速連写機能「4K PHOTO」があるが、「GH5」にはさらに進化した「6K PHOTO」と「超高速4K PHOTO」の2つのモードがあり、ブースで体験することができた。その他に、新発売の「LEICA DG VARIO-ELMARIT 12-60mm / F2.8-4.0 ASPH. / POWER O.I.S.」をはじめとした7本のLEICA DGレンズ、自撮り用にチルト式タッチパネルモニターやWシャッターを備えた「LUMIX GF9」の「4K セルフィー」機能などを試すことができた。

また、LUMIX 技術展示コーナーではLUMIXの核となる、高画質かつ高速処理を行う「Venus エンジン」、高速・高精度AFを実

現する「空間認識技術 (DFD)」、強力に手ブレ補正する「Dual I.S.2」などの独自技術が展示され、GH5 4K 動画活用コーナーでは進化した「GH5」の動画機能、クリエイティブな映像を制作する活用方法が展示された。セミナーステージでは様々な分野を得意とする写真家による、LUMIX の特徴や活用方法のセミナーが実施された。



LUMIX GH5



「LUMIX」紹介コーナーには、連日大勢の来場者が訪れた



プロ向け動画エリアのブースではメモリーカード・カメラレコーダー「AG-DVX200」や「AG-UX180」などを紹介

ソニー

ブースでは新製品の体験コーナー・ワークショップが開かれた他、著名写真家や映像監督によるスペシャルセミナーや4K プラビアで写真を鑑賞する4K ギャラリーなどが設置された。また、カテゴリごとに別れたブース内では、以下の製品が紹介された。

■レンズ

35mm フルサイズ対応、α レンズ史上最高のぼけ味にこだわったG マスターの中望遠単焦点STFレンズ「FE 100mm F2.8 STF GM OSS」、小型軽量の大口徑中望遠単焦点レンズ「FE 85mm F1.8」、スーパー35mm/APS-C フォーマット対応の電動標準ズームレンズ「E PZ 18-110mm F4 G OSS」など、α [E マウント] レンズの新商品3本を含めた全α レンズ群。

■レンズ交換式デジタル一眼カメラ

E マウントシリーズの最上位機種で、世界最速0.05 秒の高速オートフォーカス、連続撮影

モード「Hi+」時には約11 コマ/ 秒の高速連写を実現し、光学式5 軸手ブレ補正機能やタッチパネルを搭載した「α6500」、ハイブリッド位相差検出AF システムにより79 点のクロス測距点を備え、AF/AE 追従12 コマ/ 秒連写性能、有効約4240 万画素35mm フルサイズ裏面照射型Exmor R (エクスマアール) CMOS イメージセンサーを搭載したA マウントシリーズ最上位機種「α99 II」。

■デジタルスチルカメラサイバースhoot (RX シリーズ)

世界最速50.05 秒の高速AF と、AF/AE 追従24 コマ/ 秒の高速連写やスーパースローモーション記録を実現するメモリー一体1.0 型積層型CMOS イメージセンサーExmor RS (エクスマアールエス) を小型ボディに搭載したプレミアムコンパクト「RX100V」、24-600mm (光学25 倍) F2.4-4 の大口徑・高倍率ズームレンズを搭載し、広角から超望遠



まで幅広いシーンの高画質な撮影が可能な「RX10 III」。

■デジタル4K ビデオカメラレコーダーハンディカム

4K 動画撮影用のレンズと従来機と比較して画素サイズ約1.6 倍の高感度イメージセンサーを採用、ワイドからズームまで強力に手ブレを抑える空間光学手ブレ補正機能を搭載し、高精細で高解像な描写ができる4K ハンディカム「FDR-AX55」。

■アクションカム

「空間光学ブレ補正」機能をアクションカムに初めて搭載し、アクティブなシーンでも動きの激しいブレを抑えて高精細な4K (3840 × 2160) 動画を撮影できるデジタル4K ビデオカメラレコーダーアクションカム「FDR-X3000R」とフルHD 対応モデル「HDR-AS300R」。

■新アプリケーション「デジタルフィルター」：近日公開予定のPlayMemories Camera Apps のサイトにて。



プロ向け動画のブースでは、小型4K モニタを装着したデジタル一眼レフカメラ「α7 S II」(写真左) や4K モニタ Trimaster の紹介 (写真右) などを出品



パンフレット・カタログ・冊子・ポスター・名刺・封筒・ノベルティ

企 画

デザイン

制 作

印 刷

配 布

展示会・内覧会用の小中ロット印刷ならお任せ下さい。

PDF入稿
大歓迎!!

プリンターやコピーよりも
早い・安い・きれいをモットーに
短納期と低印刷コストをお約束

当社のプリンティングサービスは
名刺から大判ポスターまで、社内一環生産をしておりますので
公表前の情報が外部へ漏れることなく安心です

uni-w
www.uni-w.com

月刊FDI発行元
株式会社 ユニワールド

〒156-0043 東京都世田谷区松原2-34-9

TEL. 03(5376)7233 FAX.03(5376)7246

URL. <http://www.uni-w.com>